

令和5年度第2回蓮田市社会教育委員会 会議録				
開催日時	令和6年3月18日(月)			
	午後3時30分 開会		午後5時30分 閉会	
開催場所	蓮田市図書館 2階 視聴覚ホール			
委員出席状況	氏名	出欠	氏名	出欠
	今井 和	出席	斎藤 敏夫	出席
	田中 君子	出席	宮下 よね子	出席
	栗原 均	出席	近藤 純枝	出席
	松本 直大	欠席		
事務局出席者	西山教育長 (社会教育課) 横田生涯学習部参事兼社会教育課長、加藤副主幹、関口主査、一之瀬主査、大西主事、山崎主事 (子ども支援課) 水沼副主幹 (文化スポーツ課) 今井主査			
傍聴者	なし			
会議事項	議事 ・令和5年度社会教育関係事業報告及び令和6年度社会教育関係事業計画について ・蓮田市生涯学習支援者人材バンクについて ・令和6年度埼玉葛都市社会教育振興会について			
会議経過(議事の要旨)				
1. 開会 今井委員長より、挨拶を行った。 西山教育長より、挨拶を行った。				
2. 議事 資料に基づき、事務局より以下の報告を行った。				
①令和5年度社会教育関係事業報告及び令和6年度社会教育関係事業計画について				

- ②蓮田市生涯学習支援者人材バンクについて
- ③令和6年度埼玉葛郡市社会教育振興会について

【質疑・主な意見】

- ①令和5年度社会教育関係事業報告及び令和6年度社会教育関係事業計画について

(社会教育課実施事業について)

- 《委員》 成人式実施事業について、参加者が増えているのはよかった。参加しなかったかたに対してはどのような対応をしているのか。
- 《事務局》 当日の映像をYouTube上に限定公開で掲載し、申込みがあったかた、視聴を希望するかたに対し、啓発品を送付した。
- 《委員》 暮らしのハンドブックなどの啓発の冊子はよかった。新成人がトラブルにあわないために、あのような冊子が1冊あるだけでもよいと思う。参加しなかったかたにも配ることができたらよいと思った。
- 《事務局》 YouTubeの配信に加え、各課に配布物の照会を行い、とりまとめたものを配布している。欠席者への配布については調査していきたい。
- 《委員》 後から啓発品を取りに来る人もいるのか。
- 《事務局》 当日欠席した場合も、窓口でお渡しできる旨を案内しており、例年数名ではあるが、取りに来られるかたがいる。そのかたに対しても、YouTubeの限定公開をご案内している。
- 《委員》 放課後子供教室について、アンケート調査をされており、興味深い。児童・保護者ともにニーズがあることがわかる。一方、スタッフとしてかかわってみたいという保護者は4分の1程度の割合となっている。今後、スタッフをどのような形で確保していくのかお聞きしたい。例えば、コアになるメンバーを教育委員会内において、その中でボランティアとして関わってほしいとされているのか。
- 《事務局》 放課後子供教室は、地域社会のかたにご協力をいただき実施している事業。企画・運営についてもコーディネーターという形で地域のかたにご協力をいただいている。コーディネーターを含めて、人材確保が課題となっている。

令和5年度はスタッフの募集チラシを配布など、周知を進めてきた。

《委員》 5～10年のスパンでコアのメンバーをおさえていかなければ、活動が尻すぼみになり、拡大していかないのではないか。それが、地域の魅力につながっていかない。コアメンバーをサポートしていかないと、長続きしていかないと思う。教育委員会の関わりをしっかりとお願いしたい。

《委員》 保護者は仕事をしているかたが多く、コーディネーターを担うのは難しいのではないかと。それが今回のアンケートの結果につながっていると思う。これを増やすためには、地域のかたがたが主になる。その際、これからはボランティアに対しても、謝礼が必要になってきているのではないかと。

《事務局》 スタッフに対しては、高額ではないが、謝礼を支出している。

《委員》 謝礼の周知も必要だと思う。

《委員》 分散しての実施などは考えているか。例えば、今年度の前半は南小と中央小、後半は北小、平野小など。そうすると、2年間で全校で体験の場を作れる。デメリットとして、1つに集中したほうが効率的・効果的であると思うが。方法として、分散の考えはあるか。

《事務局》 放課後子供教室は、子どもたちの地域社会とのつながりやふれあいを趣旨としており、今のところは分散での実施は検討していない。

《委員》 ほかの小学校に対して拡大をしたいと考えているか。

《事務局》 子ども・子育て支援事業計画において、8校に広げていくことが目標として挙がっている。少しでも広げていくことを目標とし、取組を進めているところ。

《委員》 基本的には地域がベースとなるので、各地域の小学校を核としてお考えいただいたほうが良いと思う。

《委員》 子ども会育成会連絡協議会の団体数と人数は。

《委員》 私が主管して見ているので代わりに回答する。地域の子どもの数が約25。総人数が約1,000名。これは、子どもだけでなくボランティアの保護者のかたも含めた数。

《委員》 コロナの前と中間あたりでの人数は把握しているか。

《委員》 コロナ前に対して、ギャップがあるわけではない。20年前にはだいたい2,500名程度の参加だったが、下がってきており今は1,000名程度。蓮田市の学童の人数はここ20年くらいあまり変わっていなかったのではないかと思う。よって、組織率という見方をすると低くなっている。これは子ども会に限ったことではなく、各団体においても同じような現象になっていると思う。コロナによって活動が停滞しているので、その影響は否めないが、かといってそれが大きなインパクトとなって組織率が落ちているかというところ、そういうわけではないのではないかと私は思っている。むしろ、保護者のかたの就労率が高まり、これまで団体の運営を裏で支えてきたかたたちの参加が減っている。先ほど放課後子供教室のアンケートで、ボランティアに興味があると答えたのが25%程度だったと思うが、このような割合が落ちていっている。役員をやるのが難しくなってきたり、組織率が落ちていると認識している。学童のうち全体の3割は最初から団体には入らず、そこからの割合の子どもたちが各団体に分かれていっており、この傾向は今後も広がっていくと思っている。そうすると、小さな単位で進めていると組織が持たない。コアのメンバーが活動をどのように進めていき、それに対するボランティアをどれだけ増やせるか。蓮田市全体を単位として考えるなど、運営方法を切り替えていく時期に来ているのではないか。

《委員》 人材確保について、65歳以上は増えており、どのようにそれを人材バンクにつなげていくか。放課後子供教室のための人材バンクということではなく、シルバー人材センターや社会福祉協議会なども含めた、全体にアナウンスができるような。何かをやると同じ人しか集まらないのが現状。子どもたちを守ることに對して、マンパワーが必要。データも必要だが、人の力が必要だと思うので、同じ人ではなく広げていく手立てを考えていかなければならない。市のほうでできることがあればお願いをしたい。

《委員》 私の思いでは、いろいろな活動の中でコアになるメンバーは5～10名くらい。年代がバランスよく配置されているのが望ましい。コアメンバーが中長期的な計画を立て、活動を進めていく。それに対して、人材バンクなどのボ

ランティアのかたを40～50名置いて、そこから活動にどのように振り分けていくか、ということができるような方向性を取らないと、活動は難しいのではないかと。先ほどおっしゃっていた全体のボランティアの数はおそらくいると思う。そこを組み立てていくメンバーをどう作っていくかが課題。おそらく、社会教育に関わる私たちが集めていくしか手がない。そして、そこに教育委員会のサポートが必要。

《委員》 放課後子供教室の、先生方の負担や対応はどのようになっているか。

《事務局》 先生方ではなく、地域のかたがたが運営しているので、基本的には学校は場所を提供してもらって実施している。やり方によって、そのほかにもチラシの配布などの周知の協力をしていただいていることもある。

《委員》 場所を提供してくれるなら、やってくれるボランティアはいるのではないかと。折り紙や絵手紙など、同じようなことをやっている人が何名か集まり登録してもらうなど。

《委員》 黒浜南小学校は1学年何クラスあるのか。

《事務局》 6年生が1クラス、そのほかは2クラス。

《委員》 1学年1クラスの学校が多くなっている。私たちが子どものころは嫌でもクラス替えがあって、いろいろな友達と関りがあった。今は場合によっては9年間クラス替えもなく、人と交わらない。放課後子供教室はいいことだと思うが、学校をシャッフルしてやるのもひとつの方法だと思う。

《委員》 学校単位では動くことは難しいのではないかと。

《委員》 現実的には難しいが、そのようなことができればいいと思う。

(子ども支援課実施事業について)

《委員》 学校を休みがちな子をもつ親の集いを令和5年度から開催されたということで、1年間で変化や成果などはあったか。

《事務局》 学校を休みがちな子をもつ親の集いは令和3年度から実施しており、ほっとスペースりあんは令和5年度から実施している。成果について、保護者に対してどう変化があったか尋ねるような性質の事業ではないので、把握していない。

《委員》 引き続き、支援をお願いできればと思う。子育てコンシェルジュについて、マザーズハローワークが実施されているが、仕事が決まらなければ保育園に預けられないのか。

《事務局》 月に64時間以上就労をしていることが決まりとなっているが、これから就

労するという目的で保育園を探すかたもいらっしゃる。その場合点数が低くなってしまうので、就労しているほうが保育園に入りやすくなる。

《委員》 子どもが保育園に行っていなければ就労できないという条件の職場が多い。仕事があるから保育園に入れるのか、保育園に入れるから仕事ができるのか、このあたりはどうお考えか。

《事務局》 マザーズハローワークでは、子育てにやさしい企業を紹介するようにしている。そのようなところであれば、保育園に入らなくても就労しやすいメリットがある。

《委員》 子育てをしている保護者が仕事をしやすいように支援をお願いしたい。子どもが先か、仕事先か悩んでいるかたが多いということはお伝えさせていただきたい。

《委員》 就学前の子をもつ保護者のかたは不安が多いと認識している。孤立化しているところが多いのではないかと。今後、事業を再編成していくにあたって、どのように周知していこうと考えているか。

《事務局》 社会教育からのアプローチだとなかなか難しい側面がある。国ではこども家庭庁成立し、市では令和6年度から子ども家庭センターを作ろうと考えている。児童福祉と母子保健、この2分野を合わせて、保健師、児童福祉のソーシャルワーカーが協力して事業を行うもの。これに先立ち、令和5年度から伴走型相談支援と出産子育て応援給付金を行っており、これは妊娠したとき、妊娠8か月、出産したときの3回保健師等の専門職の面談を受けると、妊娠時に5万円、出産時に5万円支給するもの。このような制度で必ず役所に来ていただいたり、訪問したりして、孤立していないかを確認している。子育てコンシェルジュもそこに関わっていると思うので、併せて周知していくことが考えられる。

《委員》 私たちが関わっている事業の中で、子どもを預かってもらわないとボランティアは難しいという話もあり、そのような活動をしていくべきではないかという意見もあった。そのときは、市の事業としてあるものを活用していかないと、小さな単位では難しいという話をしたことがある。継続して進めてもらいたい。

(文化スポーツ課実施事業について)

《委員》 サブアリーナの件だが、今年度で設計まで終わり来年から工事に入ると聞いているが、予定通りでよろしいか。

《事務局》 明日、3月19日の議会で決定する。

《委員》 これはやっていなければいけない事業だと思う。

《委員》 ハストピアは音響面に関しての評判はどうか。

《事務局》 開館して7年が経つ。ホールに関しては、素晴らしいホールでピアノの状態も良いと聞いている。

《委員》 もっとアピールする手はないかと思っている。周知についてもお考えいただければと思う。

②蓮田市生涯学習支援者人材バンクについて

《委員》 市のホームページ誰でも見られるということでよいか。

《事務局》 誰でも見ることができる。

《委員》 これから運用を変えたときにどれだけ効果を上げられるか、効率的なところもあると思う。注視していきたい。

3. 閉会

横田生涯学習部参事兼社会教育課長より、閉会挨拶を行った。